



# NEWSLETTER

京都府立医科大学 男女共同参画推進センター



## 「男女共同参画推進セミナー&第102回研修医・学生のためのイブニングセミナー」

2016年9月29日(木) 18時~19時  
京都府立医科大学 北臨床講義室

### テーマ:「医師のキャリアデザイン」

- ① はじめに 「男女共同参画推進センターの取り組み」  
伊東 恭子 (京都府立医科大学男女共同参画推進センター副センター長・分子病態病理学 教授)
- ② 「描こう! 10年後の自分へのキャリアパス」  
金子 美子 (呼吸器内科学 病院助教)
- ③ 「医師のキャリアデザイン~内分泌・糖尿病・代謝内科を選択して~」  
牛込 恵美 (内分泌・代謝内科学 特任講師)
- ④ 「ニューヨーク痛みの研究留学」  
柴崎 雅志 (麻酔科学 学内講師)
- ⑤ 質疑応答

2016年9月29日に京都府立医科大学附属病院卒後臨床研修センター、京都府立医科大学総合医療・医学教育学教室との共催で、「医師のキャリアデザイン」をテーマとして、「男女共同参画推進セミナー & 第102回研修医・学生のためのイブニングセミナー」が開催され、研修医をはじめ約40名の参加が得られました。

まず、男女共同参画推進センター副センター長の伊東恭子教授(分子病態病理学)が、在宅支援、広報啓発、病児保育室、就労形態検討の4つのワーキングから病児・学内保育および就労支援を中心に、本センターの取り組みについての講演を行いました。

次に、研究支援員雇用事業利用者の金子美子病院助教(呼吸器内科学)が、キャリアパス・キャリアデザインについて、①自分を知る、②5年後、10年後のゴールを具体的にイメージする、③パス、戦略を考えて実行することが基盤であること、また、キャリアデザインの課題として、モチベーションの維持、家庭・職場の理解、保育環境の整備の重要性を挙げられました。

【共催企画】  
男女共同参画推進セミナー&  
第102回研修医・学生のための  
イブニングセミナー

日時：平成28年9月29日(木) 午後6時~7時  
場所：京都府立医科大学 北臨床講義室

テーマ:「医師のキャリアデザイン」

- 1 はじめに 「男女共同参画推進センターの取り組み」  
伊東 恭子 (京都府立医科大学男女共同参画推進センター副センター長・分子病態病理学 教授)
- 2 「描こう! 10年後の自分へのキャリアパス」  
金子 美子 (呼吸器内科学 病院助教)
- 3 「医師のキャリアデザイン~内分泌・糖尿病・代謝内科を選択して~」  
牛込 恵美 (内分泌・代謝内科学 特任講師)
- 4 「ニューヨーク痛みの研究留学」  
柴崎 雅志 (麻酔科学 学内講師)
- 5 質疑応答

※ 本セミナーはイブニングセミナーの出席にカウントされます。  
※ 参加費、事前登録は不要です。  
※ 医学生、研修医以外の職種の方の参加も歓迎します。

【主催・問い合わせ】  
京都府立医科大学附属病院卒後臨床研修センター (Tel: 075-251-6233)  
京都府立医科大学総合医療・医学教育学教室 (Tel: 075-251-6875)  
京都府立医科大学男女共同参画推進センター (Tel: 075-251-5165)  
京都府立医科大学附属病院(西) 地上5階 465号  
〒605-8585 京都市上京区河原町西(西) 上層階 15号、又は京福線から市バス4・17・205号で25分「府立医大病院前」下車

### キャリアデザイン・パスとは

Carrier design / Carrier vision = × 予想  
こころなりたい自分をイメージすること ◎ 理想

[All about : キャリアデザインの描き方]



そして、フューチャー・ステップ研究員を終了後、現在も研究支援員雇用事業を利用されている牛込 恵美特任講師(内分泌・代謝内科学)が、内分泌・代謝内科学を選択し、「糖尿病患者における家庭血圧のコホート研究」を続けていること、現在3人の子育て中で、女性研究者支援制度を利用しステップアップした経験から、責任ある立場を提示されたり引き受けることで、自ずと責任感も湧いてくる、女性医師が働きやすい職場は、男性医師も働きやすい職場であることなどをお話されました。

最後に、4児の父でいらっしゃる柴崎雅志学内講師(麻酔科学)より、多くの写真とともに留学経験をお話いただきました。ニューロパシクペインの研究をしながら、日本では経験できない多くの体験をされたこと、「留学」と構えるのではなく、とりあえず行ってみて考えるのもよいのでは、と締めくくられました。

なお、本セミナーの講演録は当センター HPでご覧いただくことができます。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/news/articles/20161116.html>

## 「イブニングセミナー」アンケートより

- 10年後の姿を思い描くことが、大切であることがよく分かった。
- 出産・育児を経験している女性医師のキャリアについて知ることができた。
- 研究と臨床の両方をやり、その間に子育てもできるということを可能にするには、しっかりとしたキャリアデザインだけでなく、周囲の環境や施設も大事だと思った。
- 留学を考えるよい機会になった。
- 女性が働きやすくなれば、男性も働きやすくなると感じた。

## 「トリアス祭特別企画講演会」

2016年11月3日（木・祝）14時～16時  
京都市立医科大学 本部棟 3階 階段教室（西）  
第1部：講演『緩和ケアと実際』

講師：藤本 早和子先生

（京都市立医科大学附属病院 看護部総括看護師長 がん性疼痛看護認定看護師）

第2部：座談会 司会：山内 大輝さん（本学医学科4年生）、樋口 奈々花さん（本学医学科3年生）



### 第1部：講演『緩和ケアと実際』

緩和ケアとは「治療の見込みのない人に提供される最期のケア」ではなく、診断期・治療期においても疾患と闘うために提供されるべき重要なケアである。WHOは「緩和ケアとは、生命を脅かす疾病に直面している患者や家族に対して、疾患の早期から、身体的、心理的、スピリチュアルな問題に対して評価を行い、それが障害とならないように予防したり、対処したりすることでQOLを改善する」と定義している。患者さんの苦痛は、身体的なもののみならず、社会的、精神的な苦痛もあり、緩和ケアではこれらを含めた全人的苦痛を重要視する。

府立医大においては、平成17年に緩和ケアチーム、その翌年にがん診療連携拠点病院を取得後、平成21年に緩和ケア外来ができて、「愛と思いやりを持って、質のよい緩和ケア」を理念に平成26年に16床の緩和ケア病棟が開設された。入院の対象となるのは、予後が3ヵ月以内と見込まれていて、緩和ケア病棟を理解されている方である。

病棟は全て個室となっており、病院で唯一ペット（ただしケージに入る範囲の動物）を持ち込むことができる病棟である。

今後の緩和ケアの課題としては、医療者への緩和ケアの普及、他施設や地域とのネットワークの構築である。

医療を生業とするならば、自分の死生観を持っていることが大切であり、常に考える姿勢を持ち続けてほしいと思う。



### 第2部：座談会

座談会では、「自分が、ガンになって、まだ小さい子どもがいると仮定して、どのように告知するか」について、ディスカッションが行われた。

きちんと伝えたい、親がいなくなることをわかってもらって残された時間を大切にしたい、まず自分自身が受け止めて事実を伝えたい（男性）、子どもが独り立ちしていないとこれからどうやって生きていくかも伝えないといけないので難しい（男性・医師）、現実を受け止めて病気の意味を伝えるべきだ（女性）、子どものこれからの経済的・精神的サポートができるように伝えたい（女性・医師）等の意見が出た。

講師の藤本先生から、母親はすごく悩まれるが、子どもの年齢によって、また子どもが死を理解しているかどうかで変わってくる、小学校就学前だと死ということが理解できないので、子どもが安心できるような環境を整えたり、小学生以上になると伝え後はできるだけ共に時間を過ごす、思春期以上では個別に説明方法を考え、伝えられない場合は、後に気持ちが伝わるような手紙を書いておくという選択肢もあるなどアドバイスをいただいた。

また、「緩和ケアの普及」について、講演会を開催する、イメージづくりから始めるなど、発展的なディスカッションが交わされた。



## 「トリアス祭特別企画講演会」アンケートより

- 緩和ケアについて日頃どのようなことをやっておられるのか、イメージなど様々なことが学べ、緩和ケアのイメージが変わった。
- 私は緩和ケアとは治療を受けられなくなった人の終末医療だと思っていたが、入院した時から緩和ケアというのは始まっているんだなと思った。
- 緩和ケアをテレビで取り上げられているのを目にしたことがあるが、やはり死に向けたケアというマイナスのイメージが強かったが、お話を聞いたり、写真を見たりして、QOLを高め、人生を最後まで楽しむことができる所なのだとなり、興味をもった。
- 実際の事例で緩和ケアが幸せな治療につながることを知った。
- 少人数だったが、ディスカッションの時間もあって、多くの意見を聞き、自分の感じたことを話す機会もあってよかったと思う。貴重なお話ありがとうございました。

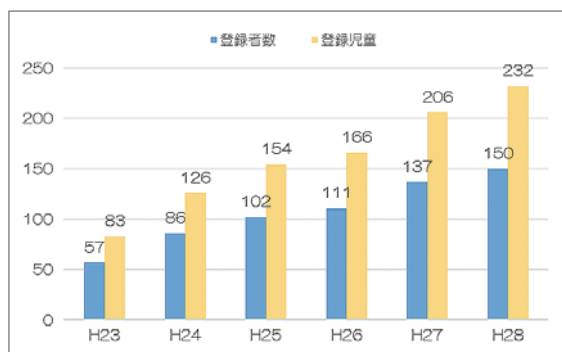


## 「大学院特別講義」

2016年11月28日（月）16時10分～17時40分  
京都府立医科大学 基礎医学学舎1階 第2講義室  
**特別講義**

- ①「Wntシグナル関連因子R-spondin1の角膜炎制御および角膜透明性維持機構」  
永田 真帆（眼科学教室 後期特定専攻医・フューチャー・ステップ研究員終了、研究支援員雇用事業利用者）
- ②「掻くことにより活性化する皮膚の免疫機構 ー研究成果を診療にいかすことを目指してー」  
峠岡 理沙（皮膚科学教室 学内講師・研究支援員雇用事業利用者）

## 病児保育室「こがも」



病児保育室「こがも」は、平成23年7月の開室から6年目となりました。平成27年度の登録者は137名、登録児数206名、利用児数延べ641人にのぼり、年々利用者は増えています。また、学部学生の病児保育に関する臨床実習も行っています。

今後も、お子さんと親御さんが安心してご利用いただけるよう、利用されるお子さんの状態に対応できる無理のない体制を心がけてまいります。夜間・休日等にweb予約した場合は、速やかにお子さんの状態をEメールで送信いただきますよう、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いたします。

病児保育室「こがも」

URL <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/carerroom/riyou.html>

Eメール [kodomo@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:kodomo@koto.kpu-m.ac.jp)

TEL/FAX 075-251-5272

## 学内保育所「くすのき」

開 所 日：2015年12月10日

受入対象者：府立医科大学及び府立大学の教職員（有期雇用教職員含む）の子（生後57日目から3歳未満）

開所時間帯：月曜日から土曜日（祝日及び年末年始除く）  
午前7時30分から午後6時30分

運 営 方 法：外部委託（株式会社アイグラン）

利用者（平成28年度）

通常保育 21名・一時保育 17名（定員26名）

\*年度途中の申し込みは、原則、利用の3カ月前までに申し込みが必要です。



開所式（2015年12月10日）

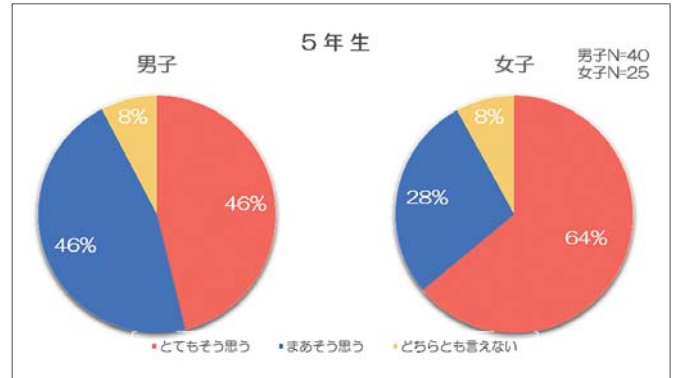
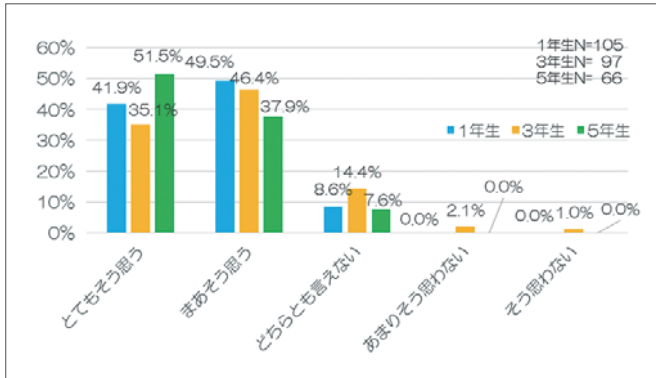


## ● 研修医・大学院生・医学科学生（1・3・5年生）アンケートを実施しました。

研修医・大学院生・医学科学生（1・3・5年生）を対象に、平成28年度男女共同参画および進路に関する意識調査のアンケートを実施しました。男女共同参画推進センターでは、キャリア教育や医師・研究者の育成に役立てるために、引き続き調査を行っています。

アンケートより「将来、専門医資格などを取得したいと思いますか。」（医学科学生）

男女ともに大多数の学生が専門医取得を希望しているが、5年生では女子学生でより高い傾向にある。



### 寄附のお願い

平成26年6月に本学男女共同参画推進センター寄附金の募集を開始し、皆さまにご協力をお願いいたしましたところ、平成26年度（平成26年6月～平成27年3月）は個人46名、3医学教室、および15法人から3,060,000円、平成27年度には個人10名、1医学教室、および8法人から980,000円、平成28年度は個人3名、9法人から880,000円（平成29年1月31日現在）のご寄附をいただきました。

皆さまからいただいた寄附金で、病児保育室見守りシステムの設置、講演会・ニュースレター発行の広報啓発事業を実施させていただきました。

誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

男女共同参画推進センターでは、今後とも、長期展望を見据えた事業計画のもと、性別にかかわらず医師および研究者等の支援を行ってまいりたいと考えております。

引き続き、皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

寄附のお申込み、詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/donation.html>

- 公益財団法人京都府医学振興会からの支援（公益財団法人京都府医学振興会女性医師支援事業）により、研究支援員雇用事業を実施し、今年度は4名が選考されました。
- 平成29年度 フューチャー・ステップ研究員（非常勤短時間勤務制度）3名が選考されました。
- 2016年12月7日に京都薬科大学で開催された四大学連携研究フォーラムで、フューチャー・ステップ研究員ならびに研究支援員雇用事業利用者がポスター発表を行いました。
- 2017年3月11日に、フューチャー・ステップ研究員、研究支援員雇用事業利用者 研究成果発表会を行います。



少子化対策府民会議設立関連  
ライトアップ（2016年11月22日）

### お知らせ

- 平成29年4月1日より、男女共同参画推進センターの広報啓発事業に協力していただく「キャリア支援コンソーシアム「えん」」を学内外から広く募集いたします。詳細はHP等に掲載する予定です。
- 「女性研究者等支援相談窓口」を開設しています。ぜひ、ご活用ください。詳しくはHPをご覧ください。

### 男女共同参画推進センター

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465  
電話（FAX）：075-251-5165  
Eメール：miyako@koto.kpu-m.ac.jp  
URL：<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel>